



経 歴	
平成19年 4月	総務省採用
	同 情報通信政策局総合政策課情報通信経済室
平成20年 7月	同 情報通信国際戦略局情報通信政策課情報通信経済室
平成21年 7月	同 大臣官房総務課
平成22年 7月	同 総合通信基盤局電波部電波政策課主査
平成23年 7月	現職

やらなきゃいけないこと、いっぱいあります。

総務省総合通信基盤局電波部移動通信課主査 岡部 晋太郎

本当にこの国をよくするために働けるのか？

この文章を読んでくださっている方は、行政官として仕事をするを通じてこの国を良くすることに興味をお持ちなのではないかと思えます。私もそのような気持ちを持ちながら就職活動を行い、最終的に総務省で働くことを決めたのですが、就職活動中に行政官としての道を歩む前に抱いていた不安は、「本当にこの国を良くするために仕事ができるのか？若いうちから自らの情熱を注げるような仕事を本当にすることができるのか？」というものだったかと思えます。

異動後の最初の指示

「じゃ、そういうことから、君の考える新しい制度の形を1枚の紙にまとめてきてくれるかな。そこから議論を始めよう。」

これは、私が現在の部署に異動してきて最初に上司から与えられた指示です。今後携わる業務の背景などについて一通りの説明を受けた後のさりげない一言でした。

私は現在、新しい携帯電話サービスの導入に向けた制度整備を行っています。最近、テレビや新聞で取り沙汰されることも増えてきたので、ご存知の方も多いかと思いますが、近年、スマートフォン等の普及により携帯電話用の電波は非常に逼迫してきており、新たな携帯電話用の電波の確保が喫緊の課題となっています。この課題を解決し、みなさんがお使いになっている携帯電話をより使いやすく、繋がりやすくするための仕組みを作るのが私の仕事です。

その始めの大仕事は、昨年成立した改正電波法の立案でした。この法律は、従来、約10年間という長い期間を要していた電波の再編成を大胆に行い、迅速に携帯電話用の電波を新たに確保するためのものですが、私の上司

は、そのフレームワークの作成を異動直後の私にまず頼んできたのでした。

リアルな社会的課題の解決に打ち込める嬉しさ

情報通信という日々めまぐるしく進歩する新しい政策分野で、新しい仕組みを作りこの国を良くしたい、これが私が総務省に入ることを決めた理由でした。携帯電話用の電波の確保という政策課題は、上述のとおり近年解決が求められている喫緊の政策課題であり、今後世界各国が直面していく課題でもありません。そのような政策課題に打ち込むことができる機会を得られた嬉しさを感じながら(もちろんプレッシャーも感じますが、)日々仕事をしてきました。

法案作成は非常にタフな業務です。上司との幾度にもわたる議論、既存の法令と齟齬がないかのチェック、膨大な資料作成、各方面への説明、国会審議に向けた準備...などを経て、無事法律が成立したときは安堵感とともに爽やかな達成感を味わうことができました。

この国を良くしたいという気持ちがあるのなら

私が担当した改正電波法は既に昨年の8月



職場の同期とマラソン大会に参加

に施行され、この国の新たな仕組みとして既に動き始めています。この制度が、上述した政策課題を適切に解決し、みなさんがより快適に携帯電話を使用することができるようになることを期待していますが、いま振り返ってみて分かることは、総務省という私の職場には、このような政策課題、それもダイレクトに日本を良くすることにつながるものに打ち込める機会があり、また、それを私のような若手に思い切らせて任せられる環境があるということです。

皆さんは、今後人生の半分を占めるであろう仕事において大切にしたいものは何でしょうか。仕事にはいろいろな要素があると思えます。やりがい、給与、休暇、職場の環境...恐らくそのどれもが大事で、私も就職活動時には、自分が仕事を通じて大切にしたいものは何なのかについて非常に悩みました。

もしあなたがこの国をよくすることを仕事にしたい、という気持ちを少しでもお持ちなら、是非、総務省の門を叩いてみてください。幸か不幸か(笑)、総務省には解決しなければならない、解決すればこの国を良くすることができる仕事がたくさんあります。

やらなきゃいけないこと、いっぱいあるので、一緒にやりませんか？

経 歴	
平成19年 4月	総務省採用
	同 総合通信基盤局国際部国際政策課
平成20年 4月	同 情報通信国際戦略局国際政策課
平成21年 7月	同 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課
平成21年 10月	内閣官房郵政改革推進室
平成23年 7月	現職

変化する時代の当事者であるために

総務省情報流通行政局情報流通振興課情報セキュリティ対策室係長 牧野 知子

総務省を目指したきっかけ

皆さんが仕事を選ぶ際の最大のモチベーションは何でしょう？

私の場合、就職活動の最大のテーマは「自分が一生面白いと思える仕事は何か？」でした。先に民間の就活を通じて、産業構造から人のライフスタイルに至るまで、社会の大きな変化を促す原動力としての情報通信に興味を持ち、「この潮流はこの先どこへ向かっていくのか、あるいは向かっていくべきなのか。そのビジョンを描きたい。また、便利さや豊かさを実現するための前向きな変化だけではなく、技術が生み出す負の側面についても指摘し、議論する過程に、自分も当事者として参画したい」と思ったのが、私が総務省を目指す原点となりました。

今の仕事と日々思うこと

私が現在所属している情報セキュリティ対策室では、いまや社会のあらゆる部分に浸透した高度な情報システムを、コンピュータウイルスやサイバー犯罪などの脅威からいかに守り、利用者の方々が安心して利用できる環境を実現していくかを検討しています。

情報セキュリティと一口に言っても、多くの機密情報・個人情報を抱える政府や企業の情報システム、金融・交通・エネルギー・通信などの一瞬も止まることの許されないライフラインを制御するシステム、個人が利用するパソコンやスマートフォンなど、さまざまなフェーズの情報システムが存在し、それぞれが直面するセキュリティ上の脅威ごとに、利便性・コストとのバランスも考えながら対策を検討する必要があります。

政府全体では、内閣官房情報セキュリティセンターを中心に、関係省庁が連携してさまざまな取組みが進められており、総務省は、技術開発や国際連携、電気通信事業者との情報

共有、一般への普及啓発といった観点から、大きな政策体系の一翼を担っています。

昨年は、政府中枢や防衛産業を狙ったサイバー攻撃が多数報じられました。特定の組織を狙って巧妙に仕組んだウイルスなどを送りつけ、情報を盗み取る「標的型攻撃」が、さまざまな組織に対して行われていることが明らかになってきており、その実態解明と対策の検討が急ピッチで進められています。

一方で利用者の側に目を転じると、例えば、ここ数年で急速に普及が進んでいるスマートフォンのセキュリティ対策も重要です。離陸したばかりのスマートフォン市場をめぐっては、利用者保護のための各種ルール整備や、従来の携帯電話との相違についての利用者の意識が追いついていない現状があり、今後激増が予想されるスマートフォン向けマルウェア(悪意あるソフトウェア)や、利用者が意識しないところで情報を収集・送信する機能を持つアプリへの対策が急務になっています。

このように、情報セキュリティの確保は、攻撃者側の進化と新しいサービスの登場という環境変化の中で、日々新しい課題が生まれています。

仕事をしていると、正直なところ、専門的な話についていくのが大変なときもありますが、国の役所の最大の強みとも言えるのは、各分野の一流の専門家や企業の担当者に直接お話を伺い、学ぶことができることです。またその方々から、「こんな政策を打ち出してほしい」という国への期待、叱咤激励の声を受け取ることも多々あります。

当初自分がやりたかった新しい時代の社会の仕組みづくりに、微力ながらも参加できているということに、大きなやりがいを感じています。また、国という立場にいるからこそ、多くの方に支えていただき、同時に期待されていることを自覚して、その期待に応えるべ

くチャレンジを続けていきたいと思っています。

改めて、総務省という職場

総務省には、自分の仕事を楽しく、夢を語る人が多いように思います。若手の自由な発言をよしとして受け止めてくれる懐の深さもあります。仕事と家庭をきっちり両立させて輝いている、カッコイイ女性の先輩にもたくさん出会うことができます。

私が最終的にここにお世話になることに決めたのは、これまで書いてきた仕事の内容もさることながら、幅広いフィールドで活躍する多くの魅力的な先輩職員に出会い、多くの刺激と、何ともいえない「居心地の良さ」を感じたことが決め手だったように思います。

皆さんもぜひ自分の熱い思いをぶつけに来てみませんか。それに応える確かなパワーを、この職場はきっと持っていると思います。



新婚旅行で行ったマチュピチュにて